

市原王、独り子を悲しぶる歌一首

一〇〇七番

言問はぬ 木すら妹と兄と ありといふを ただ
独り子に あるが苦しき

忌部首黒麻呂、友の遅く来ることを恨むる

歌一首

一〇〇八番

山のはに いさよふ月の 出でむかと 我が待つ
君が 夜はふけにつつ